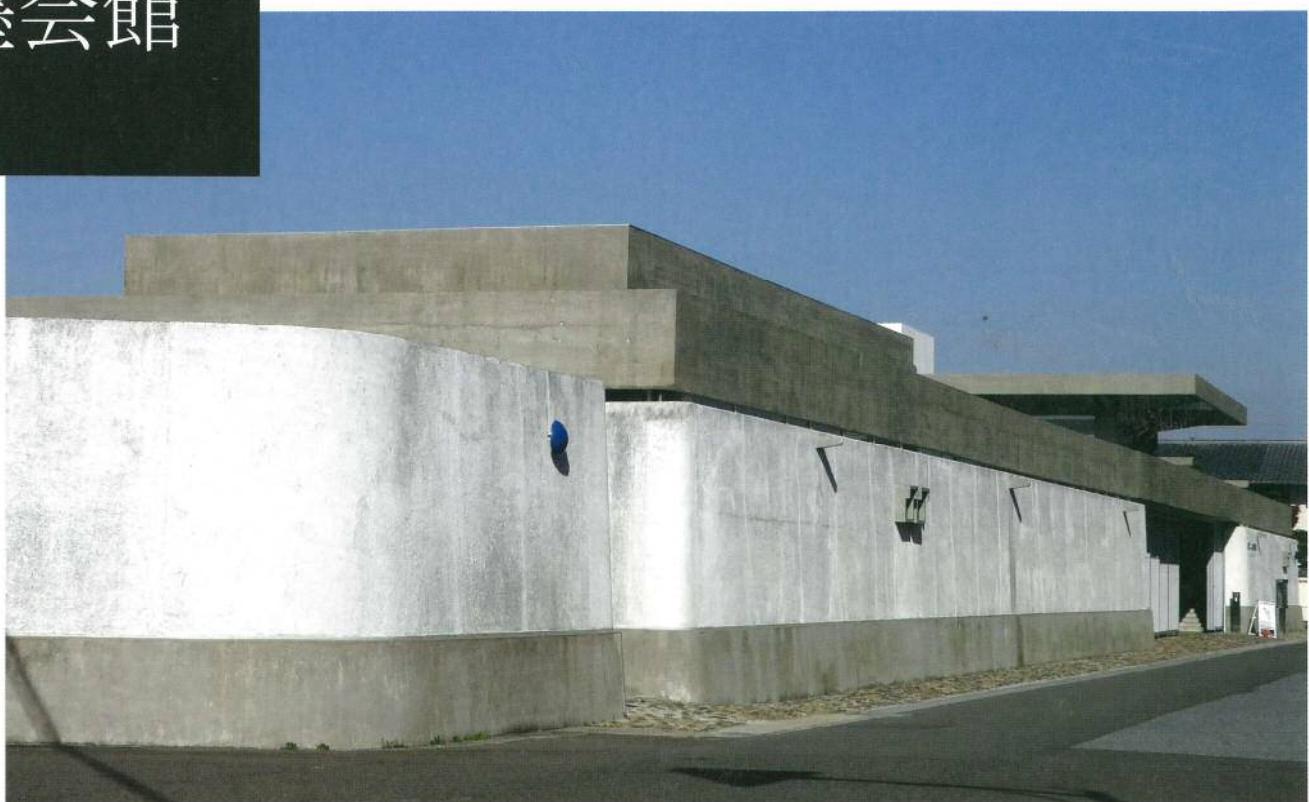


登録有形文化財

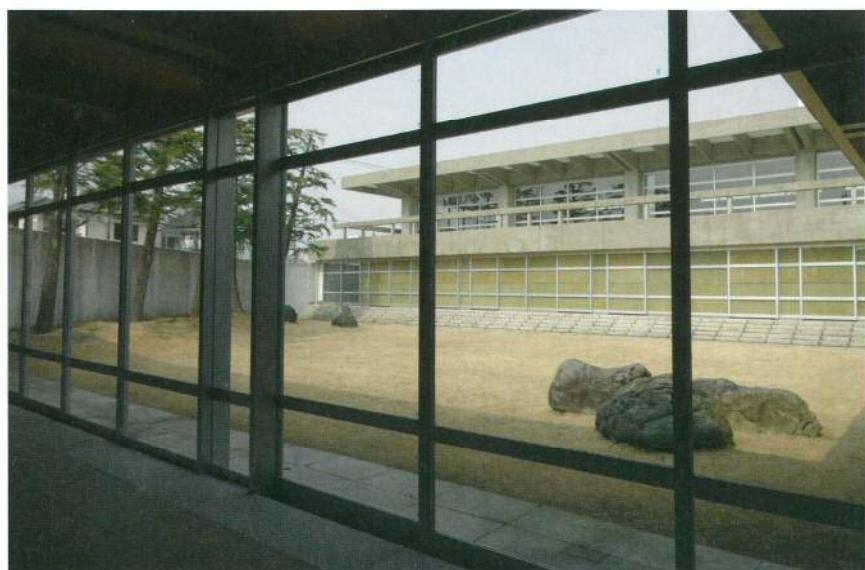
# 墨会館



旧制高校在学中に学校の図書室で見たル・コルビュジエのソヴィエト・パレス計画案に衝撃を受け、建築家を志すこととした丹下健三は、東京帝大建築科を卒業後、前川國男建築事務所に入所した。ル・コルビュジエ、アントニン・レーモンドの元で学んだ前川國男は、モダニズム建築の旗手として戦後日本の建築界をリードした建築家である。3年あまりの後、東京帝大大学院に戻った丹下は、日本建築学会主催の「大東亜建設記念营造企画」コンペに1等入選する。皇居から富士山に向かい大東亜道路と大東亜鉄道を布設し、富士山東麓に戦勝と大東亜共栄圏確立を祝す記念堂を建設するという計画である。ファシズムというよりも、地域に根ざした伝統「日本的なもの」を呼び起こしたものである。近代建築での地域性の表現は、当時の建築家たちの関心事でもあった。やがて原爆ドームを神域と見立てた広島平和会館原爆記念陳列館・広島平和記念公園、そして近代建築の素材であるコンクリートを使い伝統木造建築の再解釈を完熟させた香川県庁舎を発表し、国内外から高い評価を得ることとなった。

コンクリートの柱・梁構造にて表現した丹下建築は、広島平和会館原爆記念陳列館、旧東京都庁舎、清水市庁舎、津田塾大学図書館、倉吉市庁舎、香川県庁舎と続いた（設計の順）。香川県庁舎で柱・梁構造を完熟させた後、一転して壁の表現の模索が始まった。旧草月会館と墨会館を皮切りに、今治市庁舎・公会堂、今治商業銀行、電通大阪支社、倉敷市庁舎、立教大学図書館、熱海ガーデンホテル、コクヨ東京支店と続く（設計の順）。柱、梁構造、シェル

構造、壁の表現、彫刻的表現と様々な建築表現を経た後、その集大成として東京オリンピック国立屋内総合競技場（代々木体育館）が発表された。かつて若き丹下がコルビュジエに感化されたように、この建物に感化され建築の道を選ぶ当時の日本の若者も少なくはなかった。さらにこの丹下建築は、オリンピックの祭典も手伝い海外に広く知れ渡ることとなり、「世界のタンゲ」としていち早く海外で活躍し、認知される日本人建築家となつた。



## ここがみどころ 壁



## ここがみどころ 柱と梁（ダブルビーム）



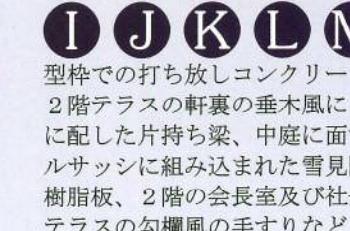
## ここがみどころ 陶板の壁とテラコッタ



**G** 建物の中寄りにトイレや水廻りを集めて耐震壁のセンターコアとし、その壁面に旧東京都庁舎では岡本太郎の陶壁画が、香川県庁舎では猪熊弦一郎の陶板が貼られた。低層建物の墨会館でも水回りをまとめたセンターコアがあり、その壁面に陶板が貼られている。集会室棟の玄関ホールでは鮮やかな色彩の陶板が貼られ、アイストップの効果が見られる。

**H** 玄関車寄せと中庭との隔壁及び建物北外壁面に使われている格子状の陶器はテラコッタグリル。孔の抜いているものと抜いていないものが組み合わせてあり、クライアントの繊維事業にちなみ、色とりどりに彩色されている。

## ここがみどころ 伝統木造建築の再解釈



**I J K L M** 杉化粧型枠での打ち放しコンクリートの柱・梁、2階テラスの軒裏の垂木風にリズミカルに配した片持ち梁、中庭に面するスチールサッシに組み込まれた雪見障子風の樹脂板、2階の会長室及び社長室の床の間風の作り付け家具、2階テラスの勾欄風の手すりなど、伝統木造建築のモチーフが随所に見られる。またテラコッタグリルの仕切り壁はその向こう側の気配を伝える和のしつらえとも思える。

**N** 吹き抜けを貫通する直進階段は、打ち放しコンクリートと伝統木造建築でよく見られるケヤキが踏み板と手すりに使われている。シンプルさと相まって和を彷彿とさせる。絨毯はケヤキの踏み板を保護するために後に付けられたもの。

## ここがみどころ 文化財の改修



**O** 屋根荷重の軽減：墨会館の耐震補強は1階のみで済ませている。屋根の保護モルタルを撤去して建物の荷重を減らすことにより、2階の耐震補強が省けた。そのため2階はほとんど手をかけることもなく、原設計のままの状態が保たれている。

**P Q** プレース補強・片持ち梁補強：1階の耐震補強は、原設計のデザインと見分けがつくよう、鉄骨で補強された。将来新たな耐震補強技術が開発された際、容易に撤去できることも理由のひとつである。



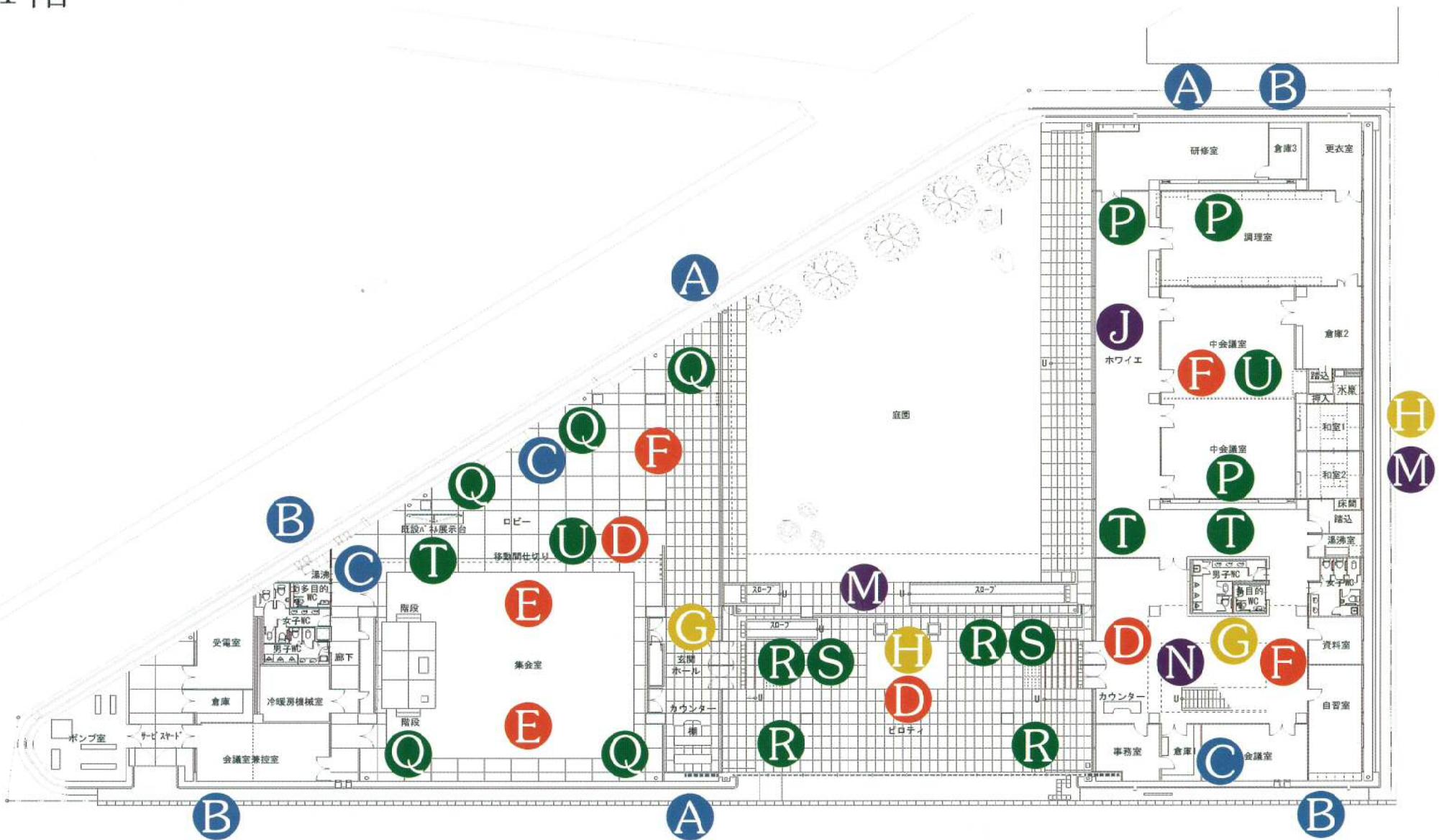
**V** 2階は見学に限定することでオリジナルを存続させた。吹抜けの廊下手すり、天井など、原設計の状態を見ることができる。



**T** 発売して間もないプラスチック(床材)の一部はオリジナルの状態を見られるよう残されている。やむなく取り替えられた壁材、集会室の可動間仕切り等が保存展示されている。

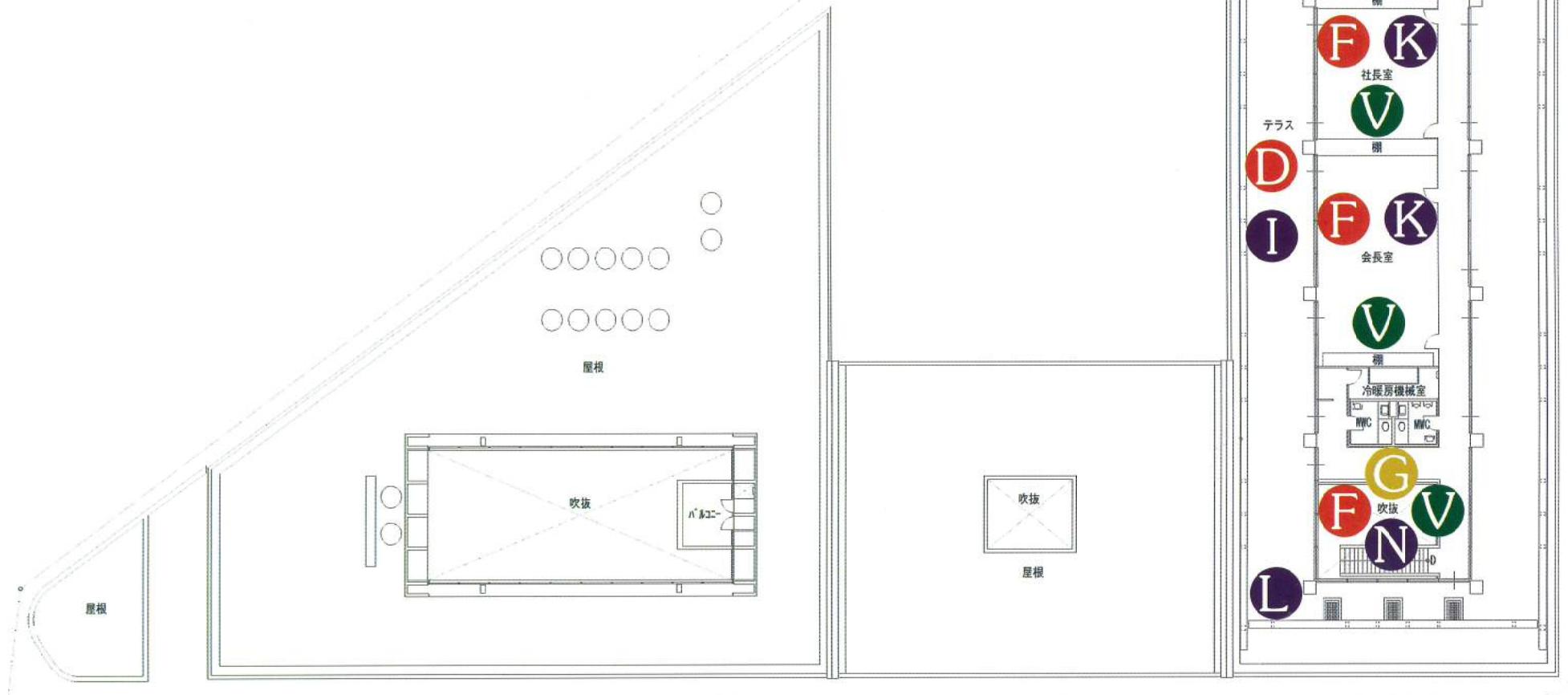
**U** 現況の法律で求められる天井材の不燃化により、天井仕上材は取り替えられた。天井採光部分の木製格子は不燃化処理をすることで再使用できることになった。

# 1階



2階

○事務所棟屋根面

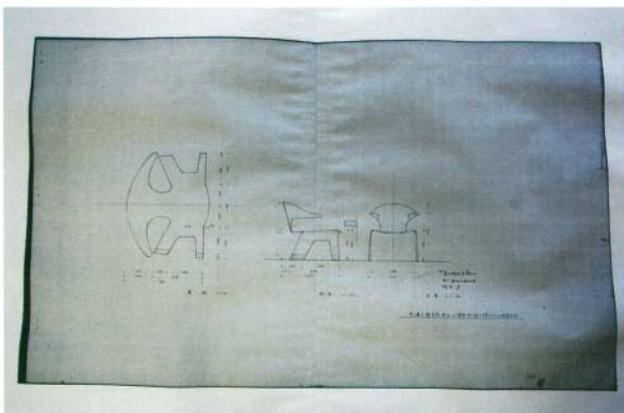


## 成形合板の家具



複雑な曲面の自由なデザインが可能な成形合板の家具は、デザイナーや建築家の創造力を刺激した。成形合板の技術を日本で初めて取り入れた天童木工は、丹下研究室の手がける大プロジェクトにおいて、大量生産で製造された成形合板の家具を納入している。丹下健三デザインの墨会館の家具「イージーチェア」は今でも天童木工から販売されており、ここ墨会館の1階廊下にも置かれている。資料室では墨会館の家具の設計図も閲覧できる。

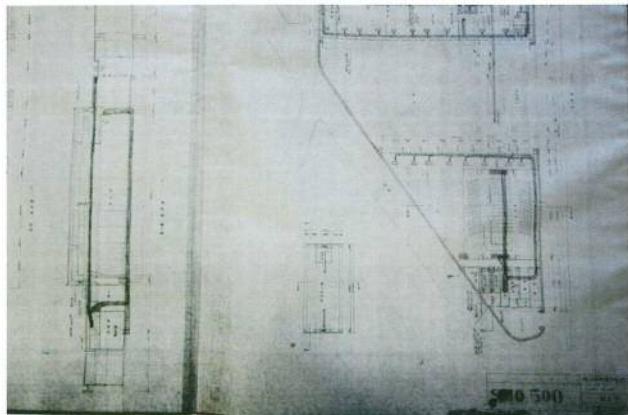
## 資料室



資料室では設計図や家具図の写しが閲覧できる。建物を見るだけでは判らない隠れた部分の納まりを確認いただきたい。1885のモジュールで設計されたが、着工の段階で1820のモジュールに修正されたという。そしてその後「1820のモジュール」は丹下研究室の標準となったという。

丹下健三関連書籍やその他資料も置いてあり、窓口にて申し出れば入室できる。

## 川合健二



豊橋市にある川合健二氏のコルゲートパイプで創られた自邸のことは、地元の建築専門家の間では比較的よく知られている。建築家石山修武氏もその影響を受け、住宅「幻庵」などコルゲートパイプの住宅を展開した時期があった。ダム建設をめぐるコンクリート冷却技術の指導中、当時の丹下事務所スタッフであった浅田孝氏と出会い「ダムが冷やせるのなら都庁舎も冷やせるだろう」ということで、東京都庁舎（1958年）の空調設備担当に抜擢された。以後、図書印刷原町工場・香川県庁舎・墨会館・駿府会館の空調設備を手がけた。

## 岐阜工場



岐阜県で唯一の丹下作品である艶金興業岐阜工場は、東京オリンピック開催前の昭和39年5月に竣工した。大型クレーンの出現で可能となった、プレキャスト・コンクリート工法で造られた。完成時は戦艦大和と同じ長さだったというが、現在は少し短くなり貸倉庫として利用されている。

所在地：羽島市正木町須賀赤松300

墨会館/小信中島公民館 <http://sumikaikan.jp>

所在地	一宮市小信中島字南九反11-1	構 造	坪井善勝	関野昇三
竣 工	昭和32年（1957）		堀田茂	渡辺仙藏
設 計	丹下健三	空気調整	川合健二	坂輪俊夫
	木村一夫 斎藤英彦 庄司孝衛	現 場	伊藤英一	
共 同	浅田孝 神谷宏治	施 工	大林組	名古屋支店
	吉川健 磯崎新 茂木計一郎	主 任	是永亀雄	

主な参考資料：  
丹下健三・藤森照信著「丹下健三」新建築社  
「川合健二マニュアル」編集出版組織アセテート発行  
天童木工 General Catalog 2012-2013  
建築文化 1958.2